

全日本港湾労働組合 関東地方鹿島港支部
青年部長 山本 恭平

2023年 第46回5・15沖縄平和行進

2023年5月11日から5月15日に開催された第46回5・15平和行進に参加しました。新型コロナウイルスの影響で中止になった年もあり、人数制限がない5・15沖縄平和行進は4年ぶりで、6年前に参加した時は3日間更新をしたのですが、今回の5・15沖縄平和行進は、5月13日の1日だけとなり、南部戦跡（約11km）コース、最後の激戦地、糸満市摩文仁を目指して更新しました。

5月11日は三単産結団式をした後に、平和学習会をやりました。平和学習会では全港湾中央執行委員長、鈴木誠一委員長の話を聞きました。1995年9月4日沖縄駐留3米兵による女子児童暴行事件のことを聞き、自分でも気になり調べてみたところ。女子児童を集団強姦し、全治2週間の傷を負わせ、悪質な犯罪行為をしたにも関わらず起訴に至らずに日米地位協定の取り決めによってアメリカ兵の身柄を日本側に引き渡すことができない。日本政府は何をしたいのか、アメリカ兵は何をしても許されるのか、政府は何のためにいるのか分からなくなり、怒りを覚えました。

なんでも平和が一番。今の生活、普通に働いて、眠たいときに寝る、自由に外出したり、家族や友人と旅行をしたりできるのは、平和だからできること。こうした生活を続けていくためにも今後の日本は、自分たち（若い人）で変えていく。鈴木誠一委員長の言葉一つ一つに重みを感じ考えさせる学習会になりました。

5月12日と14日はひめゆり資料館、旧海軍豪、宜野湾嘉数高台公園、辺野古を視察しました。山荘の悲惨さ、今沖縄が抱える課題などを知りました。国土面積の約0.6%しかない沖縄県に全国の米軍専用施設面積の約7割に及ぶ広大な米軍基地があり、昭和47年から航空機関連事故、約800件。米軍人、軍属等による刑法犯罪が約6,000件。殺人、強盗、強姦などが約600件も発生してしまう。こんなにも多くの事件、事故が起きていたとは知りませんでした。他人ごとではない、二度と繰り返さないためにも、米軍基地を撤退させなくてはならない。自分が住んでいるところではありえない事が沖縄県では起きている。オスプレイが轟音を響かせて飛び交っていたり、普天間基地に隣接する普天間第2小学校では、体育の授業中、校庭にヘリの窓枠が落下、近くの保育園にはヘリの部品が落下した。子供たちはヘリや戦闘機が飛ぶたびに、シェルターに逃げ込まなければいけない。日本のどこに、授業中シェルターに逃げ込む子供たちがいるのか。78年前と同じで空ではまだ戦争が終わっていないと思いました。

岸田政権に平和外交による戦争回避は期待できない。世界の国々の人が手を取り合い笑

ってられる争いのない世界になってほしいと心から思いました。

視察をしたことにより、戦争の悲惨さ、絶対に二度と戦争を起こしてはいけない。考えさせられる5・15沖縄平和行進になりました。この経験を後輩たちにも伝えていきます。言葉では難しいので実際に肌で感じ、一人でも多く経験をさせていきたいと思えます。沖縄地本の皆さん開催にあたり、事前準備から受け入れまで本当にありがとうございました。これからも一致団結して活動していきましょう。